

ポルトガルの旅 (2015年12月17日～2016年1月5日)

Porto ~ Aveiro ~ Lisbon

近畿支部会員

夏のサーバス旅行の感動が忘れられず、続けてこの冬休みもサーバスで旅することにしました。これまで行ったことがない国で、あまり寒くない所と考えポルトガルを選びました。ホストの総数が少ない上に、ホリデーシーズンと重なることもあり、初めはうまくホストが見つかるかとても心配でした。しかし初めにOKの返事をくださったA(名前の頭文字、以後同じ記述)の親切に助けられ、それが縁でたくさん方からオファーを頂き、最後にはポルトガルに不慣れな私のために旅の計画まで手伝ってもらい、出発までに全ての不安はなくなっていました。

12月27日～29日 Porto (A&F宅)



旅はポルトガル第二の都市、Porto ポルトから始まりました。メールでホストを探していた時に「親戚が泊まりに来るのでホストはできないけど、空港まで迎えに行っておけるよ。」と申し出てくれたRが空港で私を出迎えてくれました。夜景がきれいなポルトの街を車でドライブしながら案内してくれた後、郊外に住むホストAの家まで送り届けてくれました。

Aは、「この家ではあなたは私の娘だから、お母さんと思って何でも言ってね。」と本当に親切にしてくださり、初めての土地、初めての出会いにもかかわらず、とてもリラックスした気分で過ごすことができました。翌日は世界遺産にも登録されているポルトの歴史地区を散策したり、世界で一番美しいと言われる書店に行ったり、ポルトをたくさん歩き回りました。そして夕方にはAと待ち合わせをして、聖歌を聴きに行きました。美しい教会の中で聴く聖歌隊の歌声はまた格別なものでした。自宅での夕食には息子さんや友人も参加して、にぎやかなものになりました。ポルトの名産「ポートワイン」とポルトガルの名物料理「バカリャウ(干しダラ)」を堪能した後、サーバスの旅にはいつも持参している日本文化を紹介するお土産や、名所や生活様式などを説明する写真を見せながら、文化交流を楽しみました。ご主人のFは英語を話さないのですが、日本の文字や習字にとっても興味を持ったようで、私が彼の名前を筆で和紙に書くと大変喜び何枚も催促するほどでした。3日目はポルトから電車で移動し、Braga ブラガという街を観光した後、2人目のホストMの住むAveiro アヴェイロへ向かいました。

12月29日～1月1日 Aveiro (M宅)



Mはサーバス歴30年のベテラン?で、出発前から私のポルトガル旅行の計画を手伝ってくれた大恩人です。私は彼女の328人目!!のゲストだそうで、これまでゲストの話やトラベラーとしてのサーバス旅行の話など、時間を忘れるほどいろんな話をしてくださいました。旅の



4日目は、14世紀に創立されたヨーロッパで最も古い大学がある、Coimbra コインブラを訪れました。中でも300年前に立てられた大学の図書館は本当に豪華で美しく息を呑むほどでした。館内の見学は時間と人数が制限されており、写真撮影も禁止されているのですが、あまりの美しさに時間ぎりぎりまで見とれ最後の一人になっていた私に同情したのか、スタッフの方が写真撮影を許可してくださいました。しかも私が日本人だと知ると、まるで骨董品のような書物の中から日本について書かれた本を探して見せてくださり、ポルトガル人の親切と人懐こさと垣間見ることができました。5日目は14世紀に建設された修道院で有名な Batalha バターリャへ行きました。世界遺産に登録されている建物は荘厳で美しく、見とれるばかりでした。その後、海沿いの漁師町、Nazare ナザレにまで足をのばし、名物にもなっているサルディーニャ（イワシの塩焼き）を味わいました。ポルトガル料理と日本料理は、魚と米と野菜をよく食べるという共通点に加えて、味付けにも親しみを感じるものがあり、どこで何を食べてもとても美味しくいただくことができました。その日は大晦日で、深夜12時前にはホストの M と2人で Aveiro の街に繰り出し、カウントダウンの花火を観賞しました。ポルトガルでは年越しに「レーズンを12個食べる」という習わしがあるそうで、年越しそばならぬ「年越しレーズン」で2016年を迎えました。6日目は元旦のため街全体がお休みモード。運河沿いにタイル張りのかわいい建物が並ぶアヴェイロの街を散策した後、Mの娘さんのお家に遊びに行き、お孫さんたちも交えてゆったりとした時間を過ごしました。それから、ストライプ模様塗られたカラフルなコテージが並ぶ Costa Nova コスタ・ノヴァというビーチまでドライブを楽しみました。Mは9日間という限られたポルトガル滞在中に、私ができるだけたくさん観光できるようにとあれこれ考え、交通ルートや休館日などをチェックしたり、おすすめの料理を教えてくれるなど、本当に至れり尽くせりのもてなしでした。3日間という短い期間でしたが、アヴェイロでMのあたたかい優しさに触れ、最後に駅のプラットフォームでお別れをした時は思わず涙がこぼれそうになりました。

1月1日～5日 Lisboa (C宅)



最後の目的地は首都の Lisboa リスボン。ホストを見つけるのが難しかったのですが、「忙しくて何もしてあげられないけど、それでもいいならば…」と返事をくれたCのお世話になりました。旅の7日目はお天気にも恵まれ、リスボンの街中を散策しました。ポルトガルの冬は小雨が多いのですが、日本よりも暖かく過ごしやすかったです。この日は大学生の娘さんBとCの友人と一緒に夕食をとった後、今リスボンの若者や観光客に一番人気と言われるクラブに連れて行ってもらいました。サーバスの旅行では深夜に街に出ることが稀ですが、ホストも一緒だったので安心してポルトガルのナイトライフをエンジョイすることができました。8日目は市電に乗ってベレン地区へ。大航海時代を記念した発見のモニュメントや、これもまた世界遺産に登録されているジェロニモス修道院を観光しました。9日目はリスボンから電車に乗って Sintra シントラにあるレガレイラ宮殿を訪れました。この宮殿は他にないような不思議な庭園が有名で、池やらせん階段のほか洞窟があちこちにあったり、まるで遊園地のように大変面白かったです。この日の晩は、Cの友人が開催する瞑想と詩の朗読の会にも参加し、旅の最後の特別な思い出となりました。

今回のポルトガル旅行（9泊10日）では3軒のホストにお世話になりました。特にポルト地区周辺ではサーバス会員のつながりが強く、ホストを紹介してもらったり、車で送り迎えをしてもらったり、

旅行のアドバイスをもらったりと、いつも以上にサーバスのお世話になった気がします。どのホストも日本に興味津々で、持って行ったお土産や写真などを使って様々な文化や風習について説明すると大変喜んでくださり、いろんな質問をして日本文化への敬意を示してくれました。ポルトガルの人たちは穏やかで控えめな印象ですが、一人で旅をする私のことをとても気にかけて、細やかに気配りしてくださいました。みんなとても親切な上に、ささやかなお土産や、習字や折り紙と言ったちょっとした日本文化の紹介に対しても、「あなたはサーバスのプロね！本当に準備万端だわ！！あなたが来てくれて本当にうれしいのよ。」と、こちらが照れるほど大喜びしてくれました。これもサーバスの旅行だったからこそ、ポルトガル人の優しさや素朴さに触れることができたのだと思います。

初めて出会う外国人の私にこれほどの善意と信頼を示してくれた、素晴らしきサーバス会員の皆様にこの場をかりて感謝を述べるとともに、何にもかえがたい貴重な経験の機会を与えてくれるサーバスの組織とその運営にかかわる方々にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。トラベラー・ホスト会員としてこれからもサーバス活動に関わっていきたくないと改めて思いました。